

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、健全で高潔な社会貢献できる生徒の育成をするために、以下の項目を中心に学校目標を定め、取組みを実施。

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 自己を確立し未来を切り開く力を育成。 | 充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人 |
| 2 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成。 | 学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人 |
| 3 人とつながり自らを律する力を育成。 | 他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人 |
| 4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成。 | |

2 中期的目標

1 自己を確立し未来を切り開く力を育成 学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、社会に役立つ人間を育成

(1) 規律ある高校生活の実現

ア 当たり前に登校できる生徒を育成 社会人として欠席・遅刻は許されない

欠席件数を 7000 件以下（・H31 は 8000 件・2020 年度は 7500 件・2021 年度は 7000 件以下へ）にする。遅刻件数を 2600 件以下に（H31 は 3000 件・2020 年度は 2800 件・2021 年度は 2600 件以下へ）

イ ルールを守る意識の醸成 生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」を納得させる指導を行う。

懲戒件数を 30 件以下にする。（H31 は 30 件 2020 年度は 30 件 2021 年度は 30 件以下へ）

(2) 部活動と生徒会活動の活性化

ア 「元気な学校づくり」 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。放課後に生徒の声が響き渡る学校にする。

3 年後には、部活動の入部率を現在の 30% から 35% に引き上げる。

イ 学校行事で「人を育てる」 生徒会が中心となり生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。

学校教育自己診断において、3 年後には「学校が楽しい」と答える生徒を 80% 以上とする。（H31 は 75%・2020 年度は 77.5%・2021 年度は 80% 以上へ）

2 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成 【確かな学力の育成】をめざし、自ら伸びる力の育成とわかる授業の創造

(1) 新たな学びに対応したわかる授業の研究 新しい学習指導要領では主体的・対話的な深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善が求められる。「総合的な探究の時間を」を中心に、2022 年の完全実施に向け研究活動を行う。

ア アクティブ・ラーニングの研究・実践 図書室の多目的化を踏まえ、グループ学習などの協働学習の研究を行い、主体的で対話的な深い学びの研究を行い、校内での情報共有の研修を行う。引き続き各年度 2 校の学校訪問と 1 回の研修を実施する。

イ JAPAN e-Portfolio への対応 生徒が学校内外の活動を e ポートフォリオとして記録し、自らの学びの蓄積を確認できる体制の確立と活用方法を研究する。JAPAN e-Portfolio の情報収集を積極的に行うとともに、生徒用の手帳の活用を行う。

(2) キャリア教育の推進

「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「LHR」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。

3 年後の進路決定率 95% をめざす。（H31 は 90%・2020 年度は 92.5%・2021 年度は 95%）

3 人とつながり自らを律する力を育成 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成

(1) 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながる平野高校を推進 大阪府における通級指導教室の取り組みに学び、「ともに学び、ともに育つ」教育の推進を推し進めるとともに、学校行事やピオトープ地域の人たちを学校に招くことで、交流の機会を増やし、共同作業や学習の機会を通して他者を認める力や認められる喜びを育てる。

ア 「ともに学びともに育つ」教育の推進 支援教育が共生社会の形成の基礎なることから、障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に対し教育相談主担や SC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。また、ソーシャルワーカーとの連携を模索する。

イ 「地域とともに生徒を育てる」 ピオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていくとともに平野高校の活動を、中学生や保護者にも広く知らせる。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。地域から認められることにより自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。

(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。

イ 「グローバル人材の育成」 文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。

韓国大成一高校との「スタディツアー」を更に発展させ、学ばせたいこと、旅行行程、交流の在り方について本校独自のプログラムを策定し実施する。

4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

(1) 新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

「持続可能な教員力」の育成 変化に対応できる教員力を養うため、生徒をより深く理解する力を高め、校務のスキルアップを図るため、学校経営の中核を担うミドルリーダーや経験年数の少ない教員の育成を図る校内研修と OJT の充実する。

(2) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。

「教職員の長時間勤務の縮減」 一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。時間外労働時間において、3 年後には 15% 以上削減とする。（H31 は 5%・2020 年度は 10%・2021 年度は 15% 以上へ）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒のアンケートは全体的に肯定的評価が下がっている。学校生活が楽しいと感じられるような具体的な内容が必要と考えられる。保護者のアンケートは全体的に肯定的評価が増えている。</p> <p>2・3年生に関しては前年度にくらべ、肯定的評価は減少しているが1年生は改善している。例年2・3年生に比べ、1年生の評価は低い。今年度のその差は縮まっている。特に「学校では担任の先生以外にも悩みごとや相談事を聞いてくれる先生がいる。」の項目が7ポイント、「卒業後に社会人として困らないように、先生が行っている学校生活についての指導には納得できる。」の項目も7ポイント上昇しており、今年度学年のフロアーを変更した成果が出ている。</p> <p>一方、フロアー移動で不利益になる、2・3年生の不満がアンケートにも素直に反映した可能性がある。</p>	<p>第1回令和元年6月26日</p> <p>私学は、特に生徒の獲得に特に力を入れている。平野高校は、地域の保護者ニーズにも応えてくれる学校をめざしてほしい。「条例」はどうにもならないのか。</p> <p>地域連携大事。中学としても全面的にバックアップしたい。小学校から中学校校長になって感じたことは、4月～6月のこれまで、私学の進路の先生が多く来校している。生徒用の冊子やパンフレットを配っている。平野高校のパンフレットがよくできているので、クラブの写真などをコピーし、教室掲示をするなどのPRができるのではないかと。</p> <p>普段、障がいのある方々と仕事している。手帳取得生徒など、繊細な生徒にとっても安心して安全に学校生活を送れるようにして欲しい。「ともに学び、ともに育つ」の目標を、是非実現できるよう協力したい。</p> <p>第2回令和元年10月16日</p> <p>平野高校を希望して入学した生徒が2割から7割に増加している。驚きの実績である。小学生とのピオトープでの交流も毎年行っていて、感謝している。生徒は、元気あふれる児童の気持ちをわかって上手に対応してくれる。</p> <p>各学年1クラスずつ、授業を見学した。1年生は初任の先生の授業を見学した。熱い授業だった。生徒と年代も近いので、内容は難しかったが生徒は集中していた。2年は学年主任の授業を見学した。ピリッとした雰囲気の中にも笑いがあり楽しめる授業だった。3年生は、生徒が教壇に立って進行していくスタイルの授業だった。だいたい座って授業を受けれていた。</p> <p>生徒との関わりは、体育祭・文化祭など大きな行事が多い。湯茶サービス等の際、「ありがとう」といってもらうのが嬉しい。生徒の笑顔に元気付けられる。</p> <p>第3回令和2年1月29日</p> <p>40周年記念式典に出席し、とても生徒が落ち着いていた。先生方の丁寧な準備が見て取れた</p> <p>ピオトープの見学はありがたい。朝の急なお願いでもスムーズに行けた。児童は平野高校の生徒を、身近な学校のお兄さんお姉さんと感じている。</p> <p>平野キャリアスタンダードのイメージがつかみやすい。</p> <p>私立はお金の使い道も自由度が高い。公立高校の生徒は多様化しており、平野高校はよくやっている。もっとどこかで発信していったほうがよい。</p> <p>福祉コースがあるので、もっと地域と関わりがあってもよい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 自己を確立し未来を切り開く力を育成</p>	<p>(1) 規律ある高校生活の実現</p> <p>(2) 部活動と生徒会活動の活性化</p>	<p>(1) ア 当たり前に登校できる生徒を育成 平成30年度は欠席は減少したものの遅刻が増加している。高校生活の大前提は学校に登校してくることを、保護者と連携しながら、生徒自身の自覚を促す。</p> <p>イ ルールを守る意識の醸成 生徒に寄り添う粘り強い指導で、自ら規律を守ることのできる生徒を育成する。</p> <p>(2) ア 「元気な学校づくり」 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々のクラブ活動の成果を生徒全体で共有する広報活動を強化する <p>イ 学校行事で「人を育てる」 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら企画・立案・運営できる設定を考え、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 競技大会などの学年行事への生徒の取り組みに工夫 	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻件数を 3000 件 欠席件数を 8700 件 (H30 遅刻 3798 件 欠席 9255 件)</p> <p>・学校自己診断で「学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている」80%以上 (H29 79%)</p> <p>イ 懲戒件数を 30 件 (H30 懲戒 32 件)</p> <p>(2)</p> <p>ア 公式戦や展覧会の情報を学期に一回はHPに掲載する。(新規)</p> <p>イ 自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒を65%以上 (H30:60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校行事に積極的に参加している」80% (H30:75%) 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」72% (H30:66%) 	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻件数は 3975 件 () 欠席件数は 9742 件 () 1年生3年生は昨年度より遅刻で260件欠席で350件減少させたが、2年生だけが遅刻欠席が昨年度より大幅に増えた。1年次から遅刻欠席の多い学年で改善が困難な状況にある。)</p> <p>イ 懲戒件数 41 件 () 1年生の懲戒件数が19件で昨年度の10件から大幅に増加している。また、遅刻のポイント指導も6件から11件と増加している。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学期に1回以上更新し、これまでなかった修学旅行の情報をアップした。()</p> <p>イ ・学校が楽しいが59% () ・積極的に参加している69% () ・行事が楽しく行えるよう工夫されている。51% ()</p> <p>一方、生徒と教員の信頼関係の項目は若干アップしており、具体的に楽しめる項目の創設が必要である。</p> <p>課題 学校生活全般を通して楽しいと思える行事の創設が必要と考える。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 勉強が分り学んだことを活用できる力を育成</p>	<p>(1) 新たな学びに対応したわかる授業の研究</p> <p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>(1) ア アクティブ・ラーニングの研究・実践 エンパワメントスクールやSSHなどの先進校の教育実践から学ぶため、学校訪問を2校以上のべ10人以上の教員で行う。 また、情報共有のための校内研修を行う</p> <p>イ JAPAN e-Portfolioへの対応 情報収集に努めるため、各種研修会への参加に努めるとともに、生徒自らが記録を入力できる体制の検討会を開催する。</p> <p>(2) 「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。 ・ 1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る(活躍する卒業生や大人へのインタビューの企画・実施) ・ 中小企業家同友会との連携。生徒就労意識を育てる。 ・ インターンシップや応募前職場見学の実施 ・ 3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 ・ 進路指導部と学年との連携した進学に向けての講習を実施し、学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携を強化する。 ・ 自習室管理と自習の計画と運営 ・ 総合的な学習の時間を中心に、積極的に図書館を活用する方策を考える。(調べ学習など)</p>	<p>(1) ア ・学校訪問2校以上、校内研修の実施 ・中退者を28人以下にする。(H30は28人)</p> <p>イ 研修会参加3回 校内検討会2回</p> <p>(2) ・ 進路決定率90% (H30は79%) ・ 就職一次内定率83% (H30は79.8%) ・ 図書館利用率60% (H30は47%)</p>	<p>(1) ア ・学校訪問は現時点で3校訪問している。校内研修も1回実施した。() ・中途退学は35人と大幅に増加し転学者が減少した転退学合わせて63人で昨年より6人減少。()</p> <p>イ ・JAPAN e-Portfolioへの対応は、政策そのものがうやむやになり校内での説明は実施したが組織的対応はできなかった。()</p> <p>(2) ・ 進路決定率は84.5%で() ・ 就職一次内定率は約70.3%() ・ 図書館利用率49%() 各学年とも図書ホールとしては利用しているが、図書室との利用ではないのでこの回答率となっている。アンケートの継続性の観点から特に生徒への指摘はしていない。</p> <p>課題 キャリアパスポートを活用したキャリア教育の構築が必要となっている。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 人とつながり自らを律する力を育成</p>	<p>(1) 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながり平野高校を推進</p> <p>(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p>	<p>(1) ア 「ともに学びともに育つ」教育の推進 高等学校での通級指導教室の制度化をふまえ、発達障がいをはじめ障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」の引継を定着させ、高校での指導に活かす。また、教育相談主担や SC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。</p> <p>イ 「地域とともに生徒を育てる」 ピオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の実施 ・近隣小中学校との交流 ・授業での福祉施設交流 ・ひまわりプロジェクト ・幼稚園や地域住民との交流 ・地域のフェスタへの参加 ・中学生・保護者への広報 ・平野区との連携 <p>(2) ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた人権教育マップの作成。 <p>イ 「グローバル人材の育成」 「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」をベースにし、卒業後の地域を担う人材となるため、文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校である大成一高校との交流をさらに発展する。 ・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 	<p>(1) ア 「個別の教育支援計画」 の中学校からの引継を100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の共有を教育相談委員会で行う。(新規) <p>イ 学校教育自己診断(教員用)「学校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。」70%(H30は66%)</p> <p>(2) ア 「人権、社会のルール」について学ぶ機会がある」を75%以上(H30:73%)</p> <p>イ 大成一高校との交流会参加者50人(H30 50人)</p>	<p>(1) ア 個別の教育支援計画は保護者同意が得られたものは引き継いでいる。高校生活のスタートでは、知られたいという意識の変容が必要と考える。</p> <p>()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員会では生徒の状況について丁寧に情報の共有を行えた。() <p>イ 肯定的回答が42%と大幅に下がった。() 教員の意識が高まりもっと保護者との連携の重要性を感じているのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への周知や願いに応えているなどの他の項目は数値がアップしており、より連携の必要性を感じている。 <p>(2) ア 肯定的評価が69%と目標に達することができなかった。()</p> <p>イ 今年度も交流を続けることができた。多くの参加者もあり例年以上に交流が盛り上がった。() (H31 55人) 国際交流協会とも連携し、留学生の参加もあり一緒にダンスを披露した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成</p>	<p>(1) 新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る</p> <p>(2) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。</p>	<p>(1) 「持続可能な教員力」の育成 新しい学習指導要領に基づく教授方法や観点別評価などへの対応を行うとともに、今後AI化の進行など社会の変革に伴う教育課題の変化にも対応できるような、継続的に自ら教育課題と向き合い学ぶ教員力を育成する。</p> <p>(2) 「教職員の長時間勤務の縮減」 一斉退庁日や部活動休養日を確実に実施し、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p>	<p>(1) 教員から研修テーマを募集し、企画・運営を行う校内研修を実施する。</p> <p>(2) 時間外労働時間において5%以上削減する。 (平成30年度 12月末 17,261時間)</p>	<p>(1) 高等学校教育の無償化と大学入試の改革のテーマの研修の必要性が寄せられた。企画・運営まではできなかったが職員会議を利用しての研修が行えた。</p> <p>()</p> <p>(2) 12月末の時間外労働時間は17,097時間 約1%の長時間労働の削減が行えた。() ただし、100時間越えの教員が3人となり、改善が急務である。</p>